



給食記念週間(1/24～1/30)

日本の学校給食の歴史は明治22年までさかのぼります。山形県の小学校で貧しく、お弁当を持っていくことができなかつた子供たちにお昼ご飯を提供したことが始まりとされているようです。その後、全国に広がった学校給食ですが、戦後、食料不足が続き、栄養が足りない日本のこどもたちのために学校給食が再開されました。この日を記念して、学校給食感謝の日が設けられています。今年も給食に対する理解と認識を深めるため、また、給食に携わる方々への感謝の気持ちをもったり、健康と食事について考えたりするための時間を設定し、各学年に応じて取り組んでいます。

給食中のお昼の放送では、給食の先生の紹介や各学年の給食作文等の発表などもあっています。また、今週の児童集会(1/25)は、給食委員会の発表もありました。

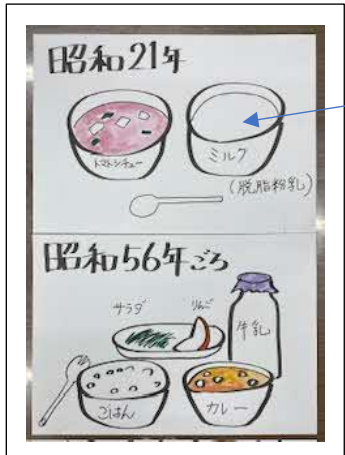
給食は、子供たちの健やかな成長のために考えられ、工夫された献立です。本校では毎日420食ほど給食室で作っています。「子供たちの喜ぶ笑顔」をイメージしながら、給食の先生方が、愛情たっぷりに作ってくださっている給食ですのでしっかり味わって食べ、この機会に感謝の気持ちを伝えてほしいと思っています。

児童集会～給食記念週間～(給食委員会)

1月25日(木)の児童集会は、上記に示したように、給食委員会の発表でした。

赤、緑、黄の給食レンジャーが登場し、嫌いな食べ物を簡単に残そうとする子や給食室内を走り回る子供たちを注意するというストーリーの劇でスタートしました。また、給食に関するクイズや栄養素のクイズ、食材のクイズもあり、聞いているみんなも大盛り上がりでした。そして、レンジャーは、レッドビーム(身体が大きくなる)、グリーンパンチ(身体の調子を整える)、イエローキック(力が湧く)をくれて、「わがままな子にはならず、自分の身体を守ろう!」というメッセージを残し、去っていきました…。

今回も、感想発表ではたくさんの挙手があり、「今までは好き嫌いがあったけど、これからは、食べるようにしたいと思いました。」「給食室は走らずに、歩いていきたいです。」等と伝えてくれました。



脱脂粉乳

インフルエンザやコロナ感染が増えています

今週に入り、どの学年も発熱による欠席者が増えました。また、感染症の罹患者も増えています。学校でも定期的に換気を促す放送をしたり、給食時の手洗いうがい、静かに配膳や食事をしたりすること等、意識的に取り組んでいます。ご家庭でも規則正しい生活を心がけ、風邪予防に努めていただければと思います。